

## 次期アクションプランについての会員意見

実施期間:2021年1月6日~2021年1月23日

※第3回ESDカフェを終え、カフェの内容及びアクションプラン(概要)に基づき、  
会員の意見徴収を行った。

意見徴収方法:全会員へ、メール及び郵送にて依頼

回答:6 会員

### 1 新アクションプランの「スローガン」は?

- ・理想の未来から私を、まちを変えていく 北九州 ESD 協議会  
(現在のスローガンが良いと思うので、これを活かしつつ、バックキャスト思考を盛り込みました)
- ・持続可能な地球のために「学び」「考え」「行動する」北九州 ESD
- ・センスがないので・・・申し訳ありません・・・
- ・誰にでもわかりやすく良いです(今のスローガン)
- ・良(今のスローガン)
- ・地球の未来・知る・動く・つなぐ  
(地球の未来がこのままだとどうなるのか「知り」、未来のために「動き」未来を次の世代に「つなぐ」)

### 2 アクションプラン 2021~2025(概要)の重点的に取り組む事項の各項におけるご意見

#### ①活動団体による自主的な取組の促進

- ・国際交流や地域への愛着やほこり・・・は、活動団体の性格によると  
思います。学びの場づくりは普及啓発の一つだと思います。  
ESD 協議会としては、活動団体による自主的な取り組みの促進  
ESD の普及啓発  
自主的な取り組みを SDGs に対応させての促進を促すくらいではないかと思うの  
ですが・・・
- ・現役世代(企業・団体に勤めている方)に対する、ESD/SDGs 講座の実施や協働  
事業  
指標:講座開催実績
- ・ESD 未来都市アワード発表交流会の実施  
国内の RCE 交流会にユースを派遣し、他地域の活動を学ぶ  
北九州の歴史を学ぶ(古代から現代まで。現地視察を含む)
- ・国内交流、地域交流(近隣市町村や離島支援など)
- ・SDGsの17項目の目標の、どの目標が自分たちの活動にあっているかを意識して  
活動すること  
各種イベントに積極的に参加すること
- ・活動の中心が小倉北区なので、若松・八幡西・門司などからは参加するのに努力  
が必要です(活動場所を時々移していただけると、いろいろな人が参加できるかも

しません。活動メンバーを区で分けてみるのも、ひと工夫)

## ②ステークホルダー同士の連携・地域外との交流

- ・地域内外の情報交換・交流・連携を促進するための諸事業
  - ESD 協議会メンバーの交流会
  - SDGs未来都市アワード
  - 国内外のRCEとの相互交流
  - 市民センターほかでの出前講座の実施
- ・会員2団体以上の連携事業に対する活動助成  
指標:助成実績
- ・ステークホルダーが連携して、ボランティア活動に参加する
- ・緩やかな「地域循環共生国」
- ・SDGsの17項目の目標に応じた講演会の実施
- ・私の住む地域のまちづくり協議会の構成団体には ESD 実行委員会があり、コンサートや講演会を実施していますが、ほとんどの地域では「ESD」に関わる活動はあまり活発ではないように感じます。年間のテーマを何かひとつ決めて、市民センターに講師を派遣させていただいてはどうでしょうか?環境学習や人権学習は市民センター講座で講師を捜していると思います。年度末に次年度の計画を作るので売り込みは早いほうがよいですが。

## ③次世代の育成

- ・市民センターやまちづくり協議会などの行事の情報収集と活動への参加、地域ボランティアとして活動する機会を捜し、体験できるようセッティングする。地域は高齢化が進み若い力を求めています。伝統行事の継承の機会もあると思います。
- ・大学生は職が決まれば SDGsや ESD の活動からはなれるのでは・・・
- ・北九州市も積極的にとりこんでいるので!!アドボケイト(代弁者)の育成と促進
- ・次世代とはどの世代かです。学生さんだけではなく、子育て世代もまだまだこれからが第二の人生という世代も・・・  
要はこれまでに ESD などに関わったことがない人たちを全部次世代にできないかと思うのですが・・・その中で、主体的活動をする次世代の育成  
学生と子育て世代などとの異世代交流  
企業と個人(学生・子育て世代ほか)のおすびつき  
(お母さん世代もぜひ企業と結びつきましょう。きっとよい刺激にお互いなります)

## ④協議会の推進体制と活動拠点のあり方

- ・予算額の約 85%を運営管理に支出し、実際の活動費を大きく上回っているという活動は、こういった協議会では当たり前なのではないでしょうか。新型コロナウイルス感染の影響がこれからも数年続くと考えるとオンラインを利用した講演会や会議、ESD 協議会の広報などを広げていく必要があると思います。参加しやすくてよい面もあると思います。ちいさな会場として各市民センターに視聴会場を作るのも良いと思います。

- ・種々活動できるイベントなどを会員全員に PR して欲しい
- ・市民センターの活用（徐々に協働できるきっかけづくり）  
動画の作成=YouTube チャンネル登録
- ・あまり参加していないのでよくわからないですがプロジェクトは名前と活動のすり合わせも含めて見直しは必要かと
- ・活動団体のネットワークはこれまでにあったことがないメンバーも新たにつながれるような何かがあるとよいのですがこのコロナ禍では・・・
- ・協議会のホームページを充実し、イベント等は会員自身がホームページからエントリーする等会員への情報の見える化と、事務局事務の効率化を図る
- ・推進体制:ML を用いた推進メンバーの紹介や、会議報告の公表  
指標:ML での公表回数  
活動拠点:シェアオフィスなどの利用

### 3 成果指標および活動指標についてのご意見

- ・イベントや会議の参加者数および新規参加者数（実活動者の把握）
- ・今年度はコロナの影響で例年と異なることが予想されますが今後の活動の方向性を決めるための参考になると思います。
- ・1年間の活動報告を ESD 協議会に報告するようにして欲しい。そうすれば他の NPO 団体の活動内容を知ることができる。
- ・かかわった人数=関係人口
- ・会員数、登録増加も大事ですが実際に動いていることが大事だと思います。  
（活動・イベントの回数と、のべ参加人数（web を含む））  
（活動・イベントに参加している団体数（いろんな人が参加））  
（出前講座回数とそこでの受講者数）  
（新規プロジェクト数とそこでの受講者数）  
以上を通して、真水（重複しない数）が増えていくのが大事かと・・・
- ・「環境先進企業へのユースを対象とした見学会を実施する」の  
活動指標 ①見学会の開催数 ②ユースの参加人数  
成果指標 ①見学企業へのインターンシップ参加数 ②見学企業への就職数

# 北九州 ESD アクションプラン 2021～2025（素案）への会員意見

実施期間：2021年2月20日～2021年3月1日

※第2回トークセッションを終え、トークセッションの内容及びアクションプラン（素案）に基づき、会員の意見徴収を行った。

意見徴収方法：全会員へ、メール及び郵送にて依頼

回答：11 会員

## 表紙

- 内容は、すべて「北九州 ESD 協議会」のアクションプランなのに、なぜ「RCE 北九州」が上にくるのか？立ち場が逆ではないか。

## 1 はじめに

- 予測不可能な不透明な時代にあって、コロナ禍は ESD の役割、果たすべき姿をはっきりさせたと思います。世界共通の問題は今やコロナウイルスに立ち向かう地球上全ての国の問題で北九州における ESD 活動はシンクグローバリーアクトローカリーの最たる姿です。
- 「はじめに」の部分は専門用語が多く、少し硬い感じがする。その他については、問題なし。
- SDGsの成り立ちではなく、ESDの成り立ちについて記述すべきではないか。
  - ・協議会の過去を振り返るべきではないか。寺坂カタエ、三隅佳子の名前はどこに出てくるのか。第9章では、振り返りができるわけがない。
- 1960年代の北九州の公害克服の歴史は世界が認めている。これが北九州ESDの原点となったことは誰もが認めているものである。この活動を礎として一人ひとりの行動が必要であろう。まずは、まちを変えて行くことに力をそそいで行かねば進まない。出来ることからである。
- 全体的意見として、アクションプランの内容については、特に意見はありません。一方で、プランを遂行していく上で、プランに掲げた項目を具体的に事業に落とし込み、事業の進捗だけでなく、プランに掲げた内容がどの程度進んでいるか、その進捗を定期的に検証し、必要に応じて事業の見直し、追加を柔軟に行うことが重要と思います。
- 誰に対するアクションプランなのか パブコメに耐えられるか？  
誰に読んで欲しい、見て欲しいのか。

## 2 取り巻く状況の変化

- 国連総会採択の SDGs は人類が目指す目標が明確になり、この達成のためには ESD の活動があってこそだと思います。SDGs 推進が評価され北九州市は多くの賞を頂戴しましたが、2018ESD アワードの表彰を私の会もいただきました。さらに多くの団体共に広げていきたいと思っています。

- ・2020 年は、緊急で多くの RCE の国際会議がオンラインで開かれ、コロナ禍の中での対応について話し合われており、(4)でコロナ禍による社会の変化について触れられているのは大変良いと思います。
- ・(3)にある“本市”は必要ない。前任のコーディネーターは何をしたか？  
・(4)は今後 5 年間のアクションプランで最も重要な部分である。もっと具体的に内容を充実させるべきではないか。
- ・17項目の SDGs 持続可能な開発目標の推進に取り組みも、2030 年目標ももう時間がありません。持続可能な開発のための教育 ESDfor2030 の探求、ESD は SDGs 達成の手段と云われているが、17 項目を市民一人ひとりがどのように取組んで行くか、頭でわかっているが難しいのが現状である。
- ・SDGs のことばかりではない。国内の RCE が増えたことは？北海道・大牟田 ESD 活動拠点はどうか。ユネスコスクールの状況は

### 3 アクションプランの策定にあたって

- ・明確な目標を確実に推し進めていくための ESD カフェ、検討会は大事なスキルを高める場となっています。オンラインの講座やズームは便利なので今後も企画をお願いします。
- ・内容が寂しすぎる。3 回行った ESD カフェの内容や検討会のことなど、書くべきことはある。この内容ならばわざわざ項目を立てる必要はない。
- ・国連で採択された「ESDfor2030」に向け、協議会のワークショップに参加したり、意見交換に参加することが出来ていない一般市民がすぐさま「北九州 ESD アクションプラン」を推し進めていくことはとても難しく感じます。
- ・任意団体の AP なのに、パブコメする理由は？ ⇒多額の税金が投入されているから

### 4 これまでの成果と課題

- ・各部ならではの活動やステークホルダー別の対象者が ESD 理解者として立ち上がってきているのは、すごい力です。私も細やかながら市民センターで実行委員会を立ち上げ、毎回地位のボランティアで活躍する、まさに地域の財産とも言える方々が参加しています。これは SDGs の時代は着々と水かさが増しています。
- ・②の「多様な教育の場」で書かれている課題については、新しく検討されているチーム制によって、進展が期待できるのではないかと思います。
- ・(2) 課題②「多様な教育の場」において、小中学校などの教育機関との連携を強化する際に博物館などの関連施設を活用していただくようお願いしたい。
- ・P9 企業：「北九州市の持続可能な社会づくりを考えた場合、若い世代の定住・就職は」北九州 ESD 協議会は民間の市民団体である。北九州市の政策を協議会で実施したいならば会員へ説明し理解と賛同を求めることが必要である。また、若い世代の定住と就職支援は「教育で地球温暖化などの世界課題を解決していく」という ESD の概念から遠くはなれており、ESD のアクションプランに入れるのは間違っている。  
ユースと企業と連携が連携して取り組むべきは課題解決である。就職支援は個人の

利益につながるため、協議会の活動ではない。

- 第1回のESDカフェや検討員会で示したような前アクションプランの進捗結果を示さないと、どこが良かったか、どこが悪かったかわからない。図表を用いて、具体的に分かりやすく示すべき
  - ・文字ばかりで読む気にならない。表やグラフを用いてはどうか。
  - ・原則として、嘘や間違いは書かない。勝手な思い込みであっても、見方によって解釈は異なる。
  - ・詳細はお送りする“赤書き”を参照のこと。
- 3つの重点的な取り組みを明確に示され、共通事項（普及・啓発・発信）など「市民センターでの講座や行事」「ESD活動の表彰制度」「協議会等との他の活動団体との交流」について目標が達成されたことは素晴らしい事だと思う。特に市民センター等での出前講座は、学ぶ機会を得て大きな成果と思われる。約140カ所の市民センターで出前講座が開かれ、多くの市民が学ぶことで、より一層ESD・SDGsの活動の輪が広がると思われる。
- ◎ユースが企業から見て魅力的に見えるようになる教育  
◎企業が学生から見て魅力的に見えるようになる教育  
このような取組を行うならば、理解できるが、学生の就職の仲介をするのはあり得ない。
  - ・市民センターは、その利用者が限られていて、広く取り組むための拠点のひとつではない。「市民センターしかない」という書き方は止めるべきである。
  - ・事務局（コーディネーター）が会員の活動を理解していない→  
事務局（コーディネーター）と会員とのコミュニケーションができていない→  
会員同士の活動をつなぐことができていない

## 5 目指す北九州の姿

- 試行錯誤は当然ですが、2006年ESD北九州での立ち上げ以来、真剣に産学官民で取り組んできた歴史、またその実績は誇りのあるものです。立ち位置の違う各部が連携を取ること、同じ方向を見ながらの協働は北九州の特性です。  
各団体の力を合わせれば2倍、3倍のスピードでESDの活動は進むと思いますし、世界中の人が願うSDGsの各項目の達成に近づくとと思います。人間力を問われます。北九州市民の自信と使命を感じてほしいです。
- この章では北九州市の政策が取り上げられています。  
北九州市の政策を実施するのが北九州ESD協議会の役割でしょうか。  
こここそ、会員で協議する内容です。私たちが目指す北九州とはどのような姿なのか。カフェで話し合った内容がまるで反映されていないのは大問題です。市の政策を取り上げるなら、会員の賛同を得るために説明すべき。協議会は市の下請け機関ですか???
- グリーン成長都市という考えは時代遅れであり、ポストコロナ・ウィズコロナ時代では“グリーンリカバリー（再生）”がトレンドである。
  - ・各ステークホルダーの役割… 市民、NPO、企業、教育機関、行政いずれのステークホルダーも協議会の会員であり、共に学び成長する必要がある。企業もユースもお

互いが魅力ある、相手から望まれる企業やユースに成長しないといけないのに「チャンスを与える」と上から目線である。

- ・「SDGs 未来都市北九州の未来戦略」には「真の豊かさ」「世界に貢献」「グリーン成長都市」があげられており、社会環境の大きな変化に対応する経済・社会・環境の両立で北九州市の SDGs 達成を強く明記されていること、また人づくりの観点からも教育の実践や生涯にわたる社会活動することで未来の人材が育つまちづくりが出来ると示されている。「北九州方式 ESD」が個人や団体が考え、行動する、お互いにつながり、世界に広がり持続可能な社会の実現に向けて一歩を踏み出す、新しいまちづくりの実現を目指されていることに感動する。
- ・ESD は「まちづくり」ではない。協議会がまちづくりまで担う事は出来ない。

## 6 北九州 ESD の将来ビジョン

- ・大切なビジョンは全て記入されています。ただ、スローガンとかはあまり理屈っぽくならない方が良いでしょう。
- ・アクションプランの中には「持続可能なまちづくり」という文言が数多くある。ビジョンの項目ではじめて「持続可能な地球」ということばを使っている。整合性がとれていない。  
ちなみに ESD は「まちづくり」という狭義に収まらない。
- ・北九州 ESD2025 のスローガン「持続可能な地球のため「学び」「考え」「行動する」北九州 ESD」の目指す4項目いずれも持続可能な地球について目標に明確にされている。学び・考え・行動することを再確認したい。

## 7 北九州方式 ESD とは

- ・ESD 活動への取り組みは、北九州は環境問題への取り組みに端を発していますが、人間の安全で幸福な生活を築くために声をあげ、先陣を切って行動した市民主体の姿がいつもそこにはありました。北九州方式はまさに市民方式です。
- ・課題—1 自分たちの活動が ESD・SDGs そのものと実感するように説明したい（各市民センター&まち協/市民センター以外の地域活動）ESD を意識しないが実質的に素晴らしい ESD 活動を実施中  
課題—2 ビジョンに向かい、ベクトルの合った活動としたい！  
【SDGs 未来都市北九州の未来戦略（ビジョン）あるべき姿「グリーン成長都市」】
- ・「はじめに」でいった 1960 年代の公害の歴史が行動のきっかけにあるのは、北九州の独自の行動であり、かつ、このことを語らずに北九州 ESD は語れないと思う。市民主体で自主的・継続的に ESD 活動で北九州の独自性が示されている。

## 8 基本事項

- ・変化につく変化のめまぐるしい時間、アクションプランの期間も5年間と決めなくてもよいと思う。なかなか検討会を重ねることは大変ですが、短いスパンで考えてもよいかと思います。
- ・主体 産学官民がそれぞれの役として北九州を中心に広く ESD の普及に取り組む、幅広い持続可能な社会づくりをこの5年間で進めることの重大さを認識する。

## 9 アクションプランの方向性

- ・SDGsの達成目標17項目へのアクションです。一人一人の特性を活かしながらアクション達成へ向けて進む方向で素晴らしいと思います。他の多くを巻き込み、力を合わせることで。
  - ・この9章の作文は落第点を付けたいです。日本語が成立していない。
    - ・「学び合うESD」→ESDは教育なので学び合うのはあたりまえ。日本語として成立していない。
    - ・「SDGsの達成」とあるが、5年でできますか？SDGs達成を目指すなら、目標のローカライズとそれにとまなう指標づくりが必須。評価指標がないとアクションプランが終わる5年後に達成したか否か判断できない。「達成に貢献する」くらいの表現の方が適している。
    - ・「SD=持続可能な社会づくり」は間違っている。「SD=持続可能な開発」が正しい。間違った勝手な解釈は混乱をまねくもとである。また、SDの理解でなく、協議会はESDの理解を推進するべきである。(検討会で大牟田教育長の発言にありました。)ここは決して譲れません。SD→ESDに変えてください。
    - ・「…必要なモノ・コト…」これは横浜市ユースのHPに書いている文言。なんのことが意味不明である。「モノ・コト」を入れたいなら前後のコピペも必要かと。
    - ・「そのため私たちにできるESD「人材育成」…」意味不明である。
- 全体的にこの4パラグラフの内容は何をいっているのかわからない。様々な文献などからコピペで作成したのか？地球課題の取り組む人材育成と言っておきながら、最後の「北九州の未来のまちづくりに取り組む」は整合性がとれていない。
- ・これまでの北九州方式ESDを継続
- このパラグラフはおおむね間違っている。
- 設立当時の北九州ESD協議会の所管は「アジア女性交流・研究フォーラム」である。よって環境がはじまりではなく、ジェンダーから始まった。以下、正しい歴史をアクションプランに表記すべきである。都合よく歴史をなかったことにしないでいただきたい。
- 2006年6月準備会設置  
2006年9月北九州ESD協議会設立  
2006年12月RCE認定  
2007年アジア女性交流・研究フォーラムを所管とし、フォーラム内に事務局を設置。事務局長はフォーラム事務局長が兼任  
2009年4月所管を北九州市環境学習課に移管。事務局をNPO法人里山を考える会事務所内(東田)に移設  
2016年4月事務局をまなびとESDステーション内に移設
- ・「SDの理解や周知と…」
- ※この5行にわたる作文を再度検討すべき。「てにおは」がおかしい。
- 「…ESDは質の高い教育に関するSDGsに必要不可欠で要素であり…」←私も様々な文献読んできましたが、こんな文言は見たことはありません。「質の高い教育に関するSDGs」とはいったいなんのことかわからない。日本語が成立していないので何を言いたいのか不明。再度見直すべき。



・P16

「持続可能な社会となる未来のため」→「持続可能な社会の実現」のこと?変な日本語です。

・「エンパワーする」→一般的には「エンパワメントする」と言いますが・・

・「SDGs17ゴール」→SDGsは日本語に訳すと「サステイナブル・デベロップメント・ゴールズ」なのでそのあとにゴールを付けるのは変です。また、他の章の文中では「SDGs17の目標」とあるので統一したほうが良い。

・「コンテピンシー」→もしかして「コンピテンシー」のことですか?ESDで使う場合、教育用語の「キー・コンピテンシー」を使います。1997年にOECDが言い始めた言葉ですが・・このパラグラフも再検討が必要です。意味が理解できていない横文字は使わないほうがよいかと...

「社会の中で生きる力」を育むのはESDにとって狭義すぎる目的です。ESDは社会変革を起こす人材育成なので、社会の中で生きる力というより、社会を変革する力を育てる教育です。

コピペもとは環境省か文科省か、はたまたESD-Jか。ESDを概念と捉えるか、ツールと捉えるかで文言や意味合いが違うので、コピペもとは統一したほうが良いです。(この意味わかりますか???わからなかったらいつでも聞いてください。)

- ・なぜESD協議会が“SDGsの達成を目指す”のか。ESDの普及実践を行った結果としてSDGsの達成に貢献できるのである。ESDがSDGsのための人材育成であるならば、まずやることはESDである。
- ・人と人、人と社会に関わって、SDGsの達成を目指し活動する方向性を明確に示し、SDGs17項目の目標を意識し、特に誰一人残さない決意ともいう活動目標に向かって取り組んで行くアクションプランの方向性、北九州方式ESDを継続して持続可能な社会の実現を目指すことは有意義である。
- ・「北九州ESD協議会」がなぜSDGs達成を目指した活動をしなければならないのか?

## 10 重点的に取り組む事項

- ・ESD・SDGsを平易な表現で説明する!
  - ①ESDとは:限りある地球を未来の世代にひきつぐために、学び・考え・行動することです。～あえて「教育」という言葉は使わない～
  - ②SDGsとは:各ESD活動を推進するための「目標」です
    - ・各グループのESD・SDGs活動が、北九州市のめざすビジョン「グリーン成長都市」に通じることを機会あるごとに説明し、ベクトルの合った活動に展開する
- ・私達の団体においても北九州ESD協議会発足以来の活動を共にしています。暗中模索の中で、やはり行政、協議会の手助けが大きな活力です。地域での各団体が伸び伸びと活動できるプラットフォーム的存在であってほしいです。
  - ・次代の担い手の育成はどの活動、どの団体においても大切なテーマで後継者なくしては砂上の楼閣。小中高学生、青年層やパパママにも拡げる施策が大事ですね。考えます。
- ・運営委員会、役員会、総会と流れがあり、報告の場がありますので、そこで協議会

の全容を知ることができます。ただ、総会のみに参加するだけなので私的には各委員会での検討事項や様子が分かればと思います。

- ・具体的に活動を始める時
    - 入会している団体は必ず@年間計画書」「年間活動実績」をESD協議会に提出する。
    - 各イベントにたくさんの団体が参加出来るよう工夫する。
    - 団体の情報を早くキャッチし、早く団体にPRする。
  - ・チーム制が見送られたのは喜ばしいことです。オンライントークセッションで話し合った内容は省きます。
    - ・ステークホルダーは会員も含まれます。ステークホルダーの使い方を再検討してください。
    - ・次世代育成は大学生に焦点が当てられているように見えますが、幼、小・中、高の世代があってもいいと思います。アクションプランに入れてください。
    - ・P9で「北九州市に定住し就職してほしい」と言っておきながら、積極的に国内外で活動したい「グローバル人材」を育成すると言っている。整合性が取れない。
    - ・企業とユースをつなぐ絆は「ESDのビジョン」であることが好ましい。大学生の就職支援は個人の利益になるため、税金を使って活動している協議会は絶対にすべきでない!この事業計画は企業による「青田刈り」と非難される恐れがあり、避けるべきである。
- 以上のことから「企業とユースをつなぎ、北九州のまちづくりについて考える」という事業は慎重に取り組むべきであり、今の事務局にはその配慮が感じられないため、私はこの事業計画に断固として反対します。
- ※アクションプランには事務局職員の人件費の根拠が書かれていません。年間1千万円の人件費の根拠はアクションプランにあるべきです。
- 根拠とは、事務局がどういう働きをしてESDに貢献するか、ということです。もちろん会員の活動支援が事務局の仕事です。事務局主導の事業展開などはありません。そのため組織というものがあるのです。組織の在り方や事務局の在り方を公にすべきです。年間予算の約50%をしめる人件費の費用対効果をアクションプランで証明してください。
- 何度も言いますが、5年間にわたるアクションプランは1億円を超える事業予算の用途を定めるためのプランです。私たちの税金です。プラン策定(どういう使い方になるのか)をよく見ていきたいと思っています。
- ・“SDGsに取り組むと予想される企業や団体”をどのように見分けるのか。SDGsに取り組むのではなく、ESDを实践する企業や団体なのではないのか。ここは「北九州ESD協議会」であり、これは協議会のアクションプランである。“見学会やワークショップをします”など、アクションプランに記すレベルのものではない。
    - ・「企業とユースをつなぎ、北九州のまちづくりについて考える」ことのどこがESDなのか。ESDは教育であって、まちづくりではない。北九州市立大学の悪しき呪縛から解き放たなければならないのに、なにをかながえているのか。
    - ・「次世代の育成」では、次世代の声や意見は反映されない。次世代を生きるユースの声を聞き、意見を取り入れともに創造するのが北九州ESDの未来ではないのか。

次世代の育成だと上から目線になっており、ユースとの関係が良好なものとはならない。

・今後 5 年間をかけて、まなびとESDから出ることを考えるべきである。北九州市の負担金という税金で運営が賄われていることを常に考え、市民の姿が消えてしまった協議会を復活させるためにも事務所移転を念頭に置くべきである。

- ・会員の自主的な取り組み、ステークホルダー同士の連携・地域外との交流・次世代の育成を目指して、協議会の推進体制と活動拠点のあり方は自主的な取り組みを進め、地域・コミュニティでの市民センター等での多様な学びの場づくりや継続的な国際交流また地域と共に広く歴史や自然環境まで学んでいける環境づくりへと進めてほしい。

## 11 成果指標および活動指標

- ESD・SDGs活動の評価 ～「変容」という言葉は難しいので避ける～
  - ①定期的にSDGs目標に対して、活動の評価する  
良ければ「達成感」を味わい、反省点は改善する
  - ②このようにPDCAを回すことにより、ESD・SDGs活動を更に深化(進化)する!
- 成果指標は「どう変容したか」です。岡山では UNESCO スクールに子どもたちの変容をテーマに調査していました。次年度は創立時から在籍している会員で指標づくりをしたいと思っています。
- ・加盟会員数の増加や出前講座の回数などがESDの成果とは言えない。それは協議会の存続のための指標でしかない。これは「協議会」のアクションプランではなく、「北九州ESD」のアクションプランであるべきである。
  - ・ユースバンク登録数は“ユースバンク”という名称がおかしい。登録することが目的ではなく、ユースとして活動することが目的である。
  - ・ESDは教育の概念である。定量的な評価をすることは難しい。
- ・成果指標 市民一人ひとりがさまざまな社会課題を意識し、日常生活のなかで解決に向けた行動に取り組むことの実現は重要であり、また、重点的に取り組む活動指標の会員による自主的な取り組み、ステークホルダー同士の連携、次世代の育成、協議会の推進体制と活動拠点のあり方など多くの活動に微力ながら応援し、共に学びたい。

## 北九州 ESD 協議会 次期アクションプランについての提言

### 1, 提言の経緯

「ESD ってなんだろう」これは 2006 年に北九州 ESD 協議会を設立した三隅佳子氏（前協議会副代表）の講演タイトルです。三隅氏は協議会がスタートしてから亡くなるまでこの講演を何十回、何百回と続けていらっしやいました。

ESD の概念は包括的で多義的であるため、皆の共通理解が難しいという面があり、いつも原点に戻る必要がありました。三隅氏は、北九州 ESD ビジョンのベクトルを合わせるために、繰り返し、繰り返し会員や市民に向けて、あるいはご自身に向けてこれを発信しておられました。

今、その役割を担う人が協議会にはいません。すなわち、北九州 ESD 協議会における ESD の本筋を理解し、活動をまとめあげ、発信する人がいないのです。

これは、いままで三隅佳子という大きな存在に甘え、ESD を繋いでいく次の世代を育てることを怠り、属人的な組織運営をしてきた結果ともいえると思います。設立時から在籍している私たちにその責任があるような気がしてなりません。このことから、次期アクションプランにその思いを入れていかなければならないと深く反省し本提言をまとめました。

北九州 ESD 協議会には北九州で 20 年以上、地道に活動を積み上げている市民団体が数多く所属しています。それこそ北九州 ESD の誇りです。しかしながら、現在の協議会ではその姿が見えにくくなっています。

社会を変革するための北九州 ESD のムーブメントをここで終わらせることはできません。先代から受け継いだ熱い思いと誇りある活動を、次世代に繋ぐ。

繰り返しますが、私たちにはその仕組みづくりを次期アクションプランに盛り込む責任があると感じています。

### 2, アクションプランに盛り込んでいただきたい取組み

- ① 運営体制の公正な仕組み化
- ② 事業の成果指標の策定のための取組み
- ③ 事業と予算の在り方の見直し
- ④ ユースの在り方の見直しと新たな枠組み

### 3, 具体的な内容

#### ① 運営体制の公正な仕組み化

- ・行政の下請け的なイメージから脱却し、民間市民団体としての新たな出発のために役員、運営委員を会員から立候補による選挙で選出する。
- ・組織運営の健全化のため、活動者の意見をより多く届けることができるよう、副リーダー制、オブザーバー参加制度等、プロジェクトリーダーだけでなく、運営委員会に

参画するメンバーを増員する。

- ・北九州 ESD は会員のボランティア活動で成り立っている。協議会事務局の業務細則を策定し、会員の無償の活動を支援するという本来の事務局の存在意義を公にする。
- ② 事業の成果指標の策定のための取組み
- ・北九州 ESD を次の担い手につなぐため、2006 年から 2020 年までの成果と課題を抽出し、「何をもって北九州らしい ESD とするか」という指標を策定する。これは設立時から在籍している会員の責任において実施する。
  - ・「北九州型 ESD」を検証、評価指標を策定した後は、活動団体や活動者に評価（功績を称える）を返し、継続して活動するモチベーションとする。
- ③ 事業と予算の在り方の見直し
- ・協議会における ESD 活動とその縮小は活動費と比例している。固定費としての家賃と人件費が活動費を圧迫している。また、ウィズコロナの時代において市の負担金の削減も予想される。固定費を削減し、活動の継続が危ぶまれる不測の事態を想定して拠点を移すことを前提に会員で協議する。
  - ・チーム制による活動について来年度は見送られたが、プロジェクト活動の在り方も検討すべきである。プロジェクト活動は、設立時にパイロット的な意味合いをもち誕生した。時代は変化し、応じて活動も変化するはずである。広報など、組織として「取組むべきこと」と、会員の自主的な意思による「取組みたいこと」の枠組みを検討するタイミングに来ている。限られた予算の中でできることは少ない。チーム制という新たな仕組みを模索するのではなく、団体の高齢化、活動の縮小化等、北九州 ESD における課題の変化、そして世界課題に対する時代の変化に応じたプロジェクト活動の見直しを行う。
- ④ ユースの在り方の見直しと新たな枠組み
- ・持続可能な社会の構築のため、世界課題と向き合い、教育で社会変容を起こしていくのが ESD のビジョンである。課題解決には長期にわたる取組みや実践から学ぶ活動が不可欠であることから、幼・保園児、小・中学生、高校生、大学生といった幅広い年代の若者に北九州 ESD を繋いでいく仕組みづくりが最も重要である。ESD を正しく理解し、ESD に貢献するため、若者（ユース）と経験豊かな社会人が協働して活動する場づくりを設定する。
  - ・協働のコーディネーションは 2015 年に協議会事業の研修制度で誕生した「ESD コーディネーター（認定証を発行している）」を登用する。ファシリテーション技術や SDGs の理解等さらにスキルを向上させる事業を実施し、会員が活躍する場を生み出し、次世代に繋いでいく仕組みとする。
  - ・企業とユースを繋ぐ絆の根元は ESD という概念であるべきである。ESD に賛同する会員（企業）とユースの関係性において協働し、世界課題解決に向かう態度が求められる。現在、アクションプラン案に挙げている企業と学生を引き合わせる事業計画は

学生個人の利益になる就職活動であり、個人の利益のために協議会が就職を斡旋するような活動は ESD の概念に大きく外れる。

#### 4. 最後に

本来、協議会という組織は会員に対して中間支援的な役割を担っています。SDGs にも示されているように、地球温暖化等の世界課題はひとつの課題に限定されず様々な課題が複雑にからみあい互いに不可分な関係にあります。ゆえに解決のためには、どの事業においても ESD が望む協働の仕組みづくりが不可欠であり、協働そのものが実践的な ESD の学びといえるのです。

ここに挙げた 4 つの取組みは、「まなびと ESD ステーション」に拠点を移す過程で私たちが取りこぼしてきた課題です。北九州市立大学の存在が巨大化し、単位が発生する地域創生学群の授業であるプロモート実習が中心的な実績となった北九州 ESD 協議会に対し、私たちはどこか他人事のような気持ちで遠くから見つめていた気がします。

そのうちに、気が付くと ESD をひろげる拠点から SDGs をひろげる拠点に変貌していました。

北九州 ESD 協議会に所属する私たちにとって活動の根拠ともいえる大切な ESD を守りたいのです。その歴史を、その活動を正しく次の世代にバトンを渡していくのが使命であり、次期アクションプランに盛り込むべき最も重要な事項であると思うのです。

「市民主体の ESD」という北九州 ESD の原点に立ち戻り、北九州 ESD 協議会の次なるステージをさらに発展させるため、①運営体制の公正化と、②成果指標の策定、③事業と予算の見直し、そして一参加団体としての北九州市立大学との新たな関係性における発展のかたちとしての④ユースの在り方をここに提言します。

地球交遊クラブ 服部 祐充子、細井 陽子  
福岡県地球温暖化防止活動推進員北九州・京築地域連絡会 川島 伸治  
個人会員 後藤 加奈子